

山口情報芸術センター [YCAM] 企画展

LabACT vol.2 視線を通じて世界と繋がる。—視線入力技術

アイトラッキング・インフォマティクス

「Eye-Tracking Informatics～視線のモルフォロジー」

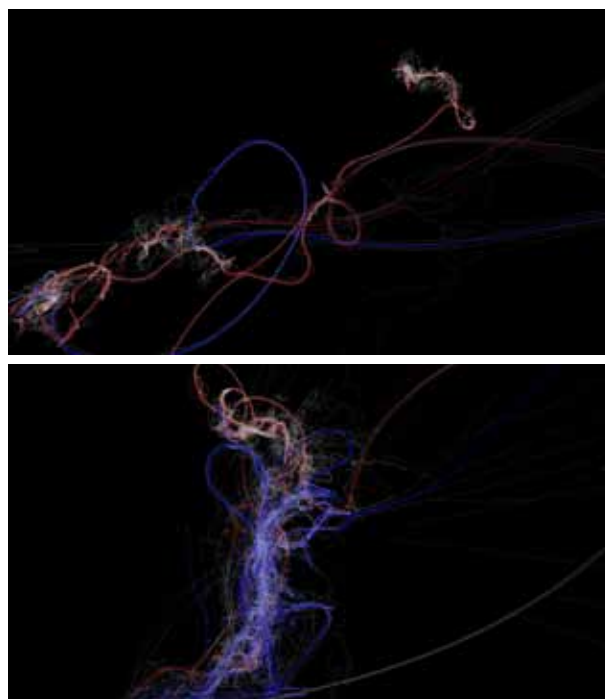
2011年12月4日(日)～2012年3月25日(日) 11:00-17:00

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB 入場無料 ※受付順に2名ごとの体験となります

メディアアートの傑作がYCAMの共同開発で生まれ変わる。
可視化される視線が、仮想世界の対話的コミュニケーションを作り出す。

山口情報芸術センター [YCAM] では、科学とアートの対話が生み出す創造性や社会的な意義など、幅広い視点から紹介する展覧会シリーズ「LabACT (ラボ・アクト)」を展開しています。現在開催中のvol.1「The EyeWriter (ジ・アイライター)」に続き、このたび新たに始まるvol.2では、アーティストの三上晴子(みかみ・せいこ)による新作インスタレーション「Eye-Tracking Informatics (アイトラッキング・インフォマティクス)～視線のモルフォロジー」を発表します。

本作は、2人の体験者が、3次元仮想空間内に可視化された自身の視線の動きを通じて、コミュニケーションや空間内のナビゲーションをおこなっていくという、三上の90年代の代表作のひとつを、最新の技術動向を反映しYCAMで再制作したものです。ビジュアルやサウンド、ハードウェアなどあらゆる面で、より精緻かつダイナミックに生まれ変わった本作を通じて、視線によるコミュニケーションや、自らの視線の軌跡が作り出すかつてない造形空間を楽しむことができます。



三上晴子「Eye-Tracking Informatics」(2011)
※画面は制作中のもので変更される可能性があります

■ 内覧会

12月4日(日) 15:00-16:30

アーティスト、キュレーターによる解説のもと、作品発表をおこないます。

この機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター [YCAM] 広報担当：廣田

TEL:083-901-2222 FAX:083-901-2216 e-mail:information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp/>

取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。



YCAM企画展の新シリーズ「LabACT」

アートが探求する技術と、技術が拓くアート表現。その創造性を紹介する展覧会。

山口情報芸術センター [YCAM] の新シリーズとなる企画展「LabACT (ラボ・アクト)」は、メディアアートの技術的な側面に着目し、科学とアートの対話が生み出す創造性について、幅広い視点から紹介する試みです。

情報技術やメディアテクノロジーを駆使したメディアアート作品において、その技術的な探求は、次代のコミュニケーションを見据えた社会性や公共性をもたらし、その開発や蓄積は、新たな表現を拓いています。本展では、アーティストとのコラボレーションによって多数の作品を制作/発表してきたYCAMの活動を生かし、研究と開発 (Research & Development) の実践から、技術の共有 (シェア) の思想や、福祉貢献を含む社会的な意義を踏まえたメディアアートの更なる可能性について考えます。

2011年度のテーマは「視線入力技術」

アートにおける、技術的な応用と発展性を実践する2つの展覧会

2011年度は、眼球の動きによる視線の変化をセンシングプログラムで検出する「視線入力技術」をテーマに、メディアアーティストを中心に社会的な活動を続けるプロジェクトと、視線によるコミュニケーションを実現するアート作品を、会期を2期に分けてご紹介します。いずれも、YCAM専属の研究開発チームYCAM InterLab*が、作品の開発やアップデートに参加し、エンジニアの方法論やアイデアを反映するコラボレーションを展開します。

第1弾となるvol.1では、目の動きだけで絵を描く装置を開発するプロジェクト「The EyeWriter (ジ・アイライター)」をテーマに、その活動の全容と、オープンソースソフトウェアの応用例となる2つの作品を展示しています。それに引き続いて開催するvol.2では、「視ることそのものを視る」というコンセプトを追求する、三上晴子による新作インスタレーション「Eye-Tracking Informatics (アイトラッキング インフォマティクス) ~視線のモルフォロジー」を発表します。1996年に発表された作品「Molecular Informatics (モレキュラー・インフォマティクス)」をもとに再制作した本作は、空間を共有する2人の体験者が、映像に映し出される視線によって触覚的ともいえる対話を実現します。メディアアートの世界的な代表作品が、技術的なアップデートでどのように生まれ変わるのか。情報技術がもたらす表現の発展性を試行します。

YCAM企画展シリーズ「LabACT」

2011年度テーマ:

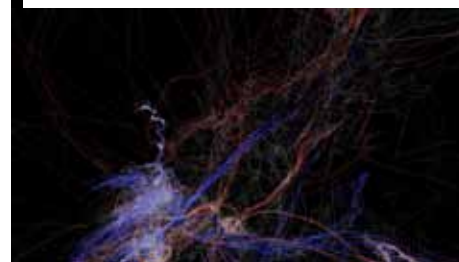
視線を通じて世界と繋がる。— 視線入力技術

LabACT vol.2

「Eye-Tracking Informatics」

(アイトラッキング インフォマティクス)

2011年12月4日(日) - 2012年3月25日(日)



三上晴子「Eye-Tracking Informatics」(2011)

※画面は制作中のもので変更される可能性があります

LabACT vol.1

「The EyeWriter」(ジ・アイライター)

開催中 - 12月25日(日)



「The EyeWriter」プロジェクトの様子 (2010)

*YCAM InterLab

研究開発チーム

山口情報芸術センター [YCAM] に専属するメディアアートを専門とした研究開発チーム。YCAM委嘱作品となるインスタレーションやパフォーマンス作品のための技術開発を専門とし、アーティストや外部エンジニアとの共同開発、作品への技術協力をおこなっている。また、最新技術の芸術表現への応用について研究・実践するほか、文化施設における技術者間の交流と人的ネットワークの構築、研究領域の拡大・普及を目的とし、国内外から研究者を招聘した共同研究などに積極的に取り組んでいる。

<http://interlab.ycam.jp/>

可視化された視線が生み出す触覚的コミュニケーションを体験する

情報社会と身体というテーマを一貫して追求してきたアーティスト・三上晴子の代表作のひとつ「Molecular Informatics (モレキュラー・インフォマティクス)」(1996年)は、視線入力デバイスを装着した体験者の視線の動きが、仮想空間内において連続する分子として視覚化され、「見ることで空間に形態を描いていく」という作品です。視線入力技術そのものが珍しかった当時、それを芸術表現と融合させたこの作品は、発表されると同時に世界のアートシーンに大きな衝撃を与え、その後バージョンアップを重ねながら、世界各地で展示がおこなわれました。しかし、急速に進化した情報技術に対応したバージョンが開発されず、近年はこの作品を体験できない状態が続いていました。本展では、メディアアートの傑作ともいえるこの作品を、最新の技術を応用して再制作をおこなった「Eye-Tracking Informatics (アイトラッキング インフォマティクス) ～視線のモルフォロジー」を発表します。

三上晴子「Eye-Tracking Informatics ～視線のモルフォロジー」

新作 (YCAM委嘱作品) | 2011 | インスタレーション

「視ることそのものを視る」「視線を成立させる意識と無意識の連鎖」をコンセプトに、2名の体験者の視線の軌跡を生成していくインスタレーション。体験者は、3次元仮想空間内に可視化される視線によって、触覚的ともいえるコミュニケーションを体験し、この過程で体験者の視線は「バイオアーキテクチャー」とも言えるような、有機的で複雑な構築物をつくり出していきます。

今回の再制作では視線入力技術にオープンソースプロジェクト「The EyeWriter ver 2.0」を導入することで、デバイスの装着が不要となり、裸眼の状態で広範な視界を確保したうえで、開放的なナビゲーションをおこなえるようになっていきます。また、evala、平川紀道といった優れたアーティストをコラボレーター（ゲストプログラマー）に迎え、ビジュアルやサウンド、インタラクティブティなど原作のあらゆる要素を、新たな表現と言えるほど大幅にアップデートしています。



参考写真：三上晴子「Molecular Informatics Ver 3.0」(1998)
Maison des Arts CRETEIL&Le Manège Maubeuge France
photo:Miwa Koizumi

三上晴子(みかみ・せいこ)

アーティスト/多摩美術大学教授

1984年から情報社会と身体をテーマとした大規模なインスタレーション作品を発表。1990年代からは知覚によるインターフェースを中心としたインタラクティブ作品を発表。視線入力による作品「Molecular Informatics (モレキュラー・インフォマティクス) ～視線のモルフォロジー」、聴覚と身体内音による作品「World, Membrane and the Dismembered Body～存在、皮膜、分断された身体」、触覚による三次元認識の作品、重力を第6の知覚ととらえた作品「gravicells (グラヴィセルズ) ー重力と抵抗」(市川創太氏との共作/YCAM委嘱作品)、情報化社会における二重化された個人の存在をテーマとした「Desire of Codes | 欲望のコード」(YCAM委嘱作品)などがある。

主な展覧会に、ミロ美術館(バルセロナ/スペイン)、ナント美術館(ナント/フランス)、クルトゥールセット美術館(ストックホルム/スウェーデン)、キュンストラウハウス(ウィーン/オーストリア)、中国国立美術館(北京/中国)、キャノンアートラボ(東京)、NTTインターコミュニケーションセンター[ICC](東京)などがある。また世界各地のメディアアートのフェスティバル——トランスメディアアール(ベルリン/ドイツ)、DEAF(ロッテルダム/オランダ)、シェアフェスティバル(トリノ/イタリア)、アルス・エレクトロニカ(リンツ/オーストリア)、ヴェロシティ(ロンドン/イギリス)、ISEA 2010(ドルトムント/ドイツ)などに出品している。スペインの「Diputacion De Malaga」から作品集を出版。「Desire of Codes | 欲望のコード」は山口情報芸術センター[YCAM]、NTTインターコミュニケーションセンター[ICC]で開催後、2012年からサンクトペテルブルクなど海外を巡回予定。

関連イベント

ギャラリーツアー [会期中全16回]

[2011年]

12月10日(土)、17日(土)、18日(日)

[2012年]

1月7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)

2月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)

3月17日(土)、18日(日)、25日(日)

各回14:00-15:00 参加無料

YCAMでは、専門のスタッフとともに作品を体験し、鑑賞のポイントを発見し、ディスカッションするギャラリーツアーを、週末を中心に開催します。YCAMのスタッフとともに作品を体験しながらディスカッションを行うことで、理解を深め、展示作品の鑑賞ポイントを発見することができます。

※各日開催までにYCAM1Fチケットインフォメーションまでお申し込みください。



過去のギャラリーツアーの様子

好評開催中

LabACT vol.1 「The EyeWriter」

開催中～12月25日(日) 10:00-20:00 (作品体験は11:00-17:00)

会場：ホワイエ 入場無料

出展作家：

The EyeWriter 開発チーム (ザック・リーバーマン、エヴァン・ロス、ジェームズ・パウダリー、テオ・ワトソン、クリス・サグリユ、TEMPT1)、エキソニモ、セミトラ

「Eye-Tracking Informatics」でも使用されている、目の動きだけで絵を描く装置を開発するオープンソースプロジェクト「The EyeWriter (ジ・アイライター)」の活動の全容を紹介するとともに、それを応用した2つの作品、エキソニモ「eyeWalker」とセミトラ「eyeFont」を展示します。



© Tempt1, Evan Roth, Chris Sugrue, Zach Lieberman, Theo Watson and James Powderly

開催概要

LabACT vol.2 視線を通じて世界と繋がる。— 視線入力技術 「Eye-Tracking Informatics～視線のモルフォロジー」

2011年12月4日(日)～2012年3月25日(日) 11:00-17:00

会場：山口情報芸術センター [YCAM] スタジオB

入場無料 ※受付順に2名ごとの体験となります

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)

出展作家：三上晴子

主催：公益財団法人山口市文化振興財団

後援：山口市、山口市教育委員会

協力：多摩美術大学情報デザイン学科情報芸術コース

共同開発：YCAM InterLab

企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

サウンドプログラム：evala

ビジュアルプログラム：平川紀道

キュレーター：阿部一直(YCAM)

テクニカルディレクター：伊藤隆之(YCAM InterLab)